Dugald Stewart
Born November 22, 1753,
Died June 11, 1828.

と刻してある、高大なネルソンの記念塔と共に此の丘の異彩を放つて居る、David Humeの遺跡も此の近くでEdinburghの誇となつて居る有名なScottの記念塔の前の通りはHumeの居宅の在た處で、今尙David Streetと稱して之を記念として居る、滯在中下宿はDandas Streetで大學に通ふには此處を通らねばならぬので、吾人に一入の印象となつた、墓も意外に近いCarton Hillの麓一墓域中に在るので、是又時々の參拜を怠らなんだ、墓域の西南隅に在る高大な石造の圓筒形建物は其の墓壁で、北面して墓門を備え、上に

David Hume
Born April 26 th 1711 Died August
Erected in Memory of Him in 1778

と大書し、內部は平坦で一物を存して居らず、唯內部壁上に一碑板を置き

Sacred to the Memory of the
Hon. David Hume of ……
One of the Barons of Excheques, and of his sons
John David & Joseph, who lie buried Here.
Miss Elizabeth Hume Dead 16th Nov. 1848

と刻してあるのみであつた、然かしMuseum of National Antiquities內に在る肖像集中に見るあのDavid Humeが此處に横はつて居るかと思ふと感深きものがあつた。

地理教材としての地形圖（第二十二）

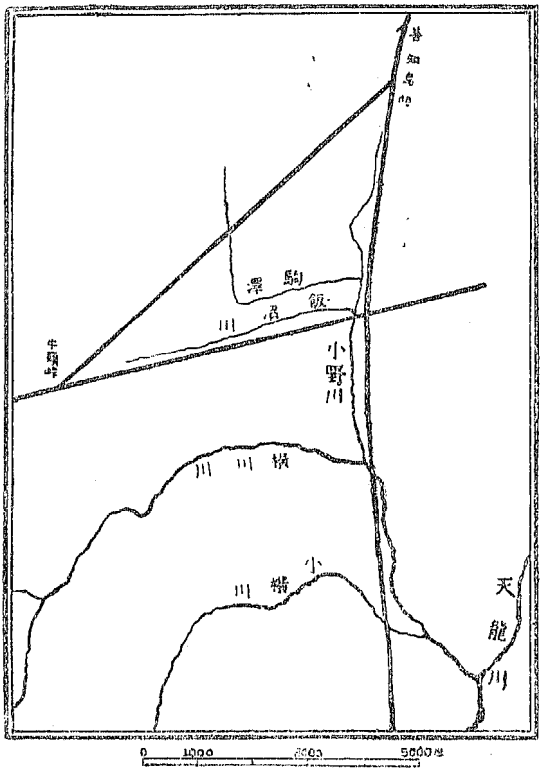
信濃國小野盆地

參照地圖。五萬分の一、鹽尻及び伊那の二葉、

中央線に乘つて鹽尻驛を去り東京飯田町に向つて來ると暫らくは山際を走つて北方に松本平の展開するを瞰下する事が出來る。然るに善知鳥峠を隧道で越ゑるとやがて汽車は山間の稍濶い平地に出て其の中を細い小野川が流れて居るのが見られる。此の處で人々は此平地に對しては小野川が餘りに貧弱であるといふ樣な感じに襲はれるだらう。此の平地が今回紹介されやうとする小野盆地である。小野盆地を過ぎると汽車

は深き峽谷に入り間もなく廣き伊那盆地の北端に當る辰野驛に着く、小野川は此の峽谷を通る間に横川川及小横川等の大支流を合せて、豐富

信濃小野盆地



なる水量を以て辰野で天龍川に合する。此の横川川及び小横川と小野盆地の南端を劃する飯沼川との河道は實に興味ある對照をなすものであ

よつて斷たれた不等邊三角形の陷沒地域であつて中には飯沼川と駒澤川とに挾まれ東西に伸びた小地壘を埋沒して居る。盆地の東方勝弦峠か

る。前の二川は中流或は上流に於いて北々東に流れ下流に至るに從つて次第に北東より東北東に轉じ、やがて東に流れ遂ひに南々東に進んで小野川に合流し楕圓形の半周に似た流路を形成して居る。處が後者では水源より一直線に東微北に流れて小野川に注ぎ、尚ほ此の方向は延長して小野川の對岸に續き其處には一粁半ばかりの谷を造つて居る。小野盆地の地形について八木貞助氏は「上伊那の地形と自然界」(先史及原史時代の上伊那の中の一章)の中に「小野盆地は……小野川線を東邊として長さ約一里に達し、西北は霧訪山の山裾を南西牛頸峠から東北善知鳥峠に向つた斷層線により又南は飯沼川線に

ら鹽尻峠に續いた山地は火山岩層で被はれて居る。又小野川は善知鳥峠で松本盆地の陷沒の爲めに截頭谷となつて居る。鐵道線路の兩側には一級宛の段丘を殘して居るが地形輪廻が伊那盆地程には進んで居らぬ。停車場附近の地層中から泥炭を出すを以つて見ると或時代には此の盆地に湛水したことが慥かである。

要するに小野盆地は地形上恰も海中に於ける島の如く四圍の地域と隔離されて居るから、古來自然及人文上の遺跡習慣等もよく保存されて居て他の地域に比して一層古典的の感を起さしめるものがある」と言つてよく同盆地の模樣を記載して居る。

此の三角形の小野地溝に反し横川川及小横川に沿ふ平地は此の地帶を構成する古生層の走向と略一致し古生層中の水蝕に對し抵抗力弱き部分が洗ひ流された事に依つて生じたものである。

廿萬分の一の地質圖及び同說明書中には此の地方の古生層は輝綠凝灰岩、石灰岩、角岩、粘板岩、硬砂岩よりなりその走向が概して東北東の走行を有すと書いてあるが其の詳細は知る事が出來ない。唯中村教授が嘗て此處を旅行されて此の事實を觀破され此處に我々は地質構造に基因する二の著しき對照をなす河道を見る事を得た事を感謝する。

小野盆地は勝弦峠の火山岩層よりなる火山が出來る以前には諏訪盆地に開口して居つたであらう。飯沼川に沿ふ東西斷層の發生が此の火山活動より古い事は此の線の東端が消える處から集塊岩が始まる事に依つて明らかである。又牛頸峠から善知鳥峠に向ふ斷層も同一の集塊岩で蔽はれて居る。唯小野川の流れに依つて示めさるゝ南北の斷層のみは何時出來たものか判斷證明が出來ないのが遺憾である。（本間）